慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	ジェファスンと農業
Sub Title	Thomas Jefferson and agriculture
Author	木村, 喜久彌
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1949
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.42, No.7/8 (1949. 8) ,p.415(45)- 429(59)
JaLC DOI	10.14991/001.19490801-0045
Abstract	
Notes	資料
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19490801-0045

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

ジェファスンと農業

木村喜久彌

獨立宣言の起草者、第三代大統領等アメリカ建國當時の民主的大政治家たるタマス・ジェファスン Thomas Jefferson は、同時に亦熱心な農業指導者であり、科學的農法實施の先驅者でもあつた。然し彼のこの半面は、未だ我國ではあまりよく知られてゐない。本稿ではこの農業家としての彼の半面を概括的に紹介しようと思ふ。

ジェファスンは、ヴァヂニア西境の民主的なフロンティアに一開拓農家に生れ（一七四三年）、そこで少年時代を過した。彼が同じヴァヂニアでも海岸地方（タイドウオタアカントリイ）の貴族的な農場（プランテエション）にではなく民主的進歩的な邊境に生れそこで成長したことは、彼の其後の精神生活に非常に重大なる影響を及した。又ウィリアム・メリイ・カレッヂ在學中（一七六〇—六二年）彼は良き師に惠まれた。即ち自然哲學者ウィリアム・スモォル William Small の人格的影響を受け、そのおかげで物事を科學的に思索する習慣を養成し得たと云はれてゐる。

以下彼の農業觀、大土地所有制度及び奴隷制度に對する反對意見、打穀機・犂頭及び麻梱等の農機具改良案、耕作技術に關する意見、オリィヴ・陸稻及びメリノ種羊の輸入に努力したこと、農業に關する唯一の著書たる「ヴァヂニア覺え書」や農場・菜園に關するメモ等について順次紹介しよう。

一

ジェファスンは一國の國民經濟に於ける農業の重要性を恒に强調し、フランスの重農主義者達と略〻同樣な考へを抱いてゐた。彼が農民を如何に考へ又國民經濟に於

ける農業の地位を如何に重要視したか。その唯一の著書「ヴァヂニア覺え書」"Notes on Virginia" から若干を引用してみる。

「ヨォロッパの經濟學者達は、すべての國はその發展の爲めに工業化に向つて努力すべきであるといふことを一般的原理として確信してゐる。而もこの原理は、他の多くの事柄と同樣に、屢〻異つた結果を招く環境上の相違等を全く無視してそのまゝアメリカに流布されてゐる。ヨォロッパに於いては、土地の大部分は既に耕作されてゐるか或いは耕作者に對して固く閉鎖されてゐる。從つてヨォロッパでは工業化と云ふことは、その過剩人口を吸收すべき必要に迫られてゐる爲め絶對に必要は問題であつて、選擇の問題ではない。之に反しアメリカには勤勉は農夫が來り耕すのを待つてゐる土地が無限に存在してゐる。從つてアメリカでは殆んど大部分の市民が農業改良の爲め努力すべきであり、他の人々の消費を充す爲め工業生產に從事するのは極く一部分の市民に限るのが最上の策ではあるまいか？

「大地を耕す人々は神に選ばれた人々である。而も常に選良として本質的で純眞な美德を備へてゐる。」

農民はこの地上に聖火を絶さず保持する中心である。彼等が若しさうしなければ、聖火は地上から消滅してしまふかもしれないのである。今まで如何なる時代如何なる國家に於いても、農民の大部分が道德的に頽廢したと云ふ樣は實例は一つもなかつた。道德的頽廢とは、神に依存せず而も農民のやうに自己の土地及び自己の勤勉に依存せずして、その生活が歡客の氣紛れに依存してゐる如き人々につけられた標識である。從屬は阿諛及び金次第と云ふ氣質を生ぜしめ美德の幼芽を窒息せしめる。更に野心の計畫に適した道具を用意することになる。技藝の自然の發達及び結果は、偶然の環境によつて屢〻遲延させられた樣である。然し概して一國家に於ける農業人口と他の職業人口との比率は、その國家に於ける健全な要素と不健全な要素との比率であり、更にその國の國民道德の頽廢の程度を測定するに足る良きバロメェタァでもある。我國（以下我國とはアメリカ合衆國を指す）に耕作すべき土地が存在してゐる限り、我國の多くの市民が細工臺（ディスク）に向つて工作仕事をしたり紡綸竿をくる〳〵廻したりする樣な工業に從事する光景は目擊したくはない。大工、石工及び鍛冶屋は農村に不足してゐて必要だが、その他の工業は一切ヨォロッパに委せたいものである。我國の職工に食糧や原料を與へて彼等のしきたりに從つてやらせるよりは、ヨォロッパの職工に食糧や原料を輸送してやる方がましである。大西洋を横斷して貨物を輸送するに費す失費は、統治の幸福及び恒久性で十分埋め合せがつくであらう。大都會の群衆は、恰も傷（又は腫物）が人間の肉體に及ぼすと同じく多くのものを純粹の政府の維持に附加してゐる。一つの共和國を常に强壯た

らしめてゐるのは、それを構成する市民の風習及び精神である。道德的精神的墮落は、その法律及び組織を間もなく喰ひ潰してしさう潰瘍の樣なものである。」

彼は一七八五年八月二三日パリからジョン・ジェイ John Jay 宛の手紙にも同樣な意見を述べてゐる。

「土地の耕作者は、最も價値ある市民です。彼等は最も強健にして獨立心に富み而も善良な性質をもつてゐます。更に彼等は國家と密接に結びついて居り、大地と云う最も永續性のある絆によつて國の自由及び利害と結びついてゐます。」

ジェファスンは萬人を平等に愛し、人々の間に階級の差別をつけることを嫌つた。然し當時ヴァヂニアでは土地に關して限定相續による家產設定の制度が慣行となつてをり、大農場は父から長男へと傳えられ、賣却や贈與による財產の讓渡は禁ぜられてゐた。更に長子相續制も行はれ、父が遺言を殘さずに死去した場合その全財產は長子にのみ歸屬することになつてゐた。これらの制度は財產を何代にもわたつて同一家族に限定保有せしめんとするものであつて、封建的非民主的なものであつた。ジェファスンは、この法律を改正すべくヴァヂニア議會から選ばれた委員會の委員として大いに活躍し、猛烈な反對があつたにも拘はらず遂に限定相續制及び長子相續制

を夫々一七七六年及び一七八五年に廢止せしめるのに成功した。その間の事情について彼自らがその自紋傳の中で述べてゐることを次に掲げる。

「一七七六年一〇月一二日、私は世襲的土地所有者がその所有地を無條件相續所有地 fee simple とすべきことを宣言せる法案の議會通過に成功した。植民の初期卽ち土地が輕少な金額又は無償で入手出來た當時、若干の慮りある人々は廣い土地の下附を受けそれを彼等の子孫の世襲的不動產 fee tail とした。同じ家の代々にわたる財產の繼承は、特殊家族を育成した。卽ち彼等は法律によつてその富の恒久性を保證され、一種の特權階級を形成し豪奢な生活を營んだ。そして英國王も植民地に於ける英國側議員 Counsellors of State を必ずこの特權階級から選出させて來た。然し乍らかゝる特權階級の存在は、社會全體に對して利益となるよりは寧ろ有害であり、且つ危險である。富による貴族の代りに、神が社會の利益の爲に用意し且つあらゆる條件を通じて平等に散布した美德及び才能を持つ貴族に對する道を開くことは、秩序正しき共和國には最も必要なことである。而もそれを効果あらしめるには、何等の暴力による革命をも必要とせず、又自然的權利の剝奪の必要もない。單に法律の廢止によつてかゝる機會を擴大すれば足りるのである。新なる法律は、現在の土地所有者に對して、子供に對する彼等の愛情が均分されて

ゐる樣に、その子供等にその所有土地を均分することを命ずるものである。」

尙この長子相續制廢止に反對の人が長子は少くとも弟達の二倍の分配にあづかるべきだと主張したところ、ジェファスンは、その長子が弟達の二倍働く能力をもち且つ二倍の食事を必要とするのでない以上これを認めるわけにはゆかないと答へたといふ。

扨てジェファスンの農場は約二〇〇人の黑人奴隸を使役してゐた。然し民主的な彼は、奴隸制度に對して常に反對の意見を持つてゐた。ジェファスンの傳記を書いたギルバァト・チナァドによれば、ジェファスンの奴隸制度に對する見解は、次の如くであつた。卽ち「奴隸制度は、國家の腫物のやうなものであつて、事情が許す限り、一刻も早く改善するべき恥ずべき制度である」と。然し乍らジェファスンは、奴隸の解放は經濟的混亂を生じない樣に行はるべきものと考へてゐた樣である。(Gilbert Chinard, Thomas Jefferson:—the Apostle of Americanism—(Boston, 1929), p. 452)

奴隸解放に必然的に伴ふ社會經濟的混亂を殆んど顧慮しない樣な全く感情的で過激な急進的奴隸制度廢止論者に比べるならば、ジェファスンは溫健で消極的な漸進的奴隸制度廢止論者と云へやう。當時南部地方の農業に不可缺のものとして奴隸制度が一般に是認されてゐたヴァヂニアで、ジェファスンの如く奴隸の人權を認めたものは稀であつたと思はれる。ジェファスンは他の人々のやうに奴隸を單なる投資の對象とは考へてゐなかつた。彼は奴隸が解放された場合自活出來る樣に彼等に自活の方法を敎へた。と云はれてゐる。(August (C. Miller jr., Jefferson as an Agriculturist p. 69 in "Agricultural History" No. 16, April 1942)

その農場に使役されてゐる奴隸に對するジェファスンの態度について、彼の管理人ベェコン Bacon は次の如く述べてゐる。

「ジェファスン氏は奴隸を含む使用人に對して常に親切で寬大であつた。彼等を過勞させたり鞭打することは決して許さなかつた。」(Rev. H. W. Pierson, Jefferson at Monticello (New York 1862), p. 103)

II

ジェファスンは外國の進步した農機具を輸入して自ら實驗した後附近の農夫間に普及させたり、或ひは勞力節約の爲め自ら犂頭を改良したり、その他耕作技術の改良に多大の關心を抱いてゐた。

前者の代表的な實例として、彼は當時スコットランドで用ひられてゐた打穀機 threshing machine を初めてアメリカへ弘めた。その間の事情について、彼が一七九三年九月一日附でフィラデルフィアからジェイムス・マディスン James madison に宛てた手紙の一節がこれを語つてゐる。

「(前略)私が注文した打穀機がスコットランドからニュウ・ヨォクへ到着しました。ピンクニイ Mr. Pinckney 氏の話では、この打穀機の原型(私のはその原型を模して作つてもらつたのですが)は六頭の馬と五人の勞力で一五〇ブッシェルの小麥を八時間で打穀したとのことです。この打穀機の原動力は、水力でも亦馬力でも良いのです。更に幸ひなことには、それを製作した職人がアメリカへ定住する爲め同じ船で渡來したことです。私は彼に對して直ちにリッチモンドへ來て私の打穀機をモデルにして打穀機の本格的製造に從事してほしい旨の手紙を出しました。從つて貴方へ次の便りを出す迄にはその返事が得られるものと期待して居ります。このモデルは大部分眞鍮製で、最初は馬力專用の簡單な型で費用は五ギニイかゝりました。其後ピンクニイ氏が之を水力にも適用出來る樣設計しました。尤もそれは構造がもつと複雜で一三ギニイかゝりました。然しそれは幅の廣い豆(ウィンザービーンズ)からどんな小さな穀粒迄をも打穀出來るでせう。」

この打穀機の効果は實に素晴しく能率的であつた爲め、彼の近所の農夫達もこの打穀機を注文し大いに普及したのであつた。

彼自身が改良し大いに好評を博したものに、犂頭がある。それまで犂板の彎曲部を正確に作ることが出來ず、犂頭で切りとつた耕土が犂板に附着したり或は畦溝の中に落ち込んだりし勝ちであつてうまく行かなかつた。ジェファスンは之を改良せんとして、一七八八年頃から犂頭の形及び角度等を數理的に檢討し、耕土を切りとる場合土の抵抗力が最も少い樣な卽ちあまり力を入れないでも土を輕く切りとれる樣な犂頭を作らうとして色々考案した。當時既に他の多くの人々も犂頭の改良を行なつてゐた。然しそれ等は、往昔のサクソン人の如き單純な農具を使用してゐた大多數の農夫には構造・操作があまりにも複雜すぎて實用的でなかつた。之に反しジェファスンの案出した犂頭は、構造・操作が極めて簡單なものであつて、一般の農夫が鋸と手斧との如きありふれた道具を以て作製し得るものであつた。ジェファスンの犂頭が具體的に如何なるものであつたか、一七九八年三月二三日附で彼がフィラデルフィアからサァ・ジョン・シンクレア Sir John Sinclair に宛てた手紙の一節にそれをう

かゞつてみよう。

「(前略)私は貴方宛の前便で、私の思ひついた犂頭の構造に言及しました。それは實に能率的な形狀で而も簡單に作製出來る樣なものです。貴方の所屬されてゐる會(農業改良奬勵會)の會員であるヨォクのストリックランド氏 Strickland も私の犂頭の構成原理に滿足されて設計圖を書かれ、他に若干の人々も同樣に稱讚して下さつたことを私は記憶してゐます。其後五ケ年間の體驗によつて、私はこの犂頭が理論上のみでなく實際上でも實に能率的なものであると斷言出來ます。犂頭は、犂の後端に始まつた犂先のそして同一平面上の翼部の延長でなければなりません。而もその第一の任務は、耕土を翼部から水平に受けとりそれをひつくり返して一定の高さに盛ることにあり、更にその間土の抵抗力を最も少くし從つてそれに要する勞力を最小限に切りつめることにあります。若しこれが犂頭の唯一の任務であるならば、恐らく楔が最も望ましい形となるでせう。(土が犂頭の一定の長さの中に一定の高さに盛り上げられるだけであつてひつくり返されないものならば、土の抵抗力の最も少ない形は嚴密に云つて兩面が眞直な楔ではなく、數學家が示す最も抵抗力の少い立體の法則に從つて上方の片面が彎曲した形の楔となるべきであるといふことは、私も十分承知してゐます。然し犂頭の場合平らな楔と彎曲した楔とはその效果が殆んど同樣なのです。

然し彎曲した楔の方が動かすのにより多くの勞力を要するので平らな楔を以て私の設計上第一の目的を實施するのに一番望ましい形と看做してゐるのです。)

然し土はひつくり返されます。さうする爲め楔の他の端は、それ自身の重さで落ちかゝる樣垂直に迄上げられなければならないでせう。而もそれは抵抗力が最も少い樣になされねばならぬので、土が受取られた瞬間から徐々に上げられねばならぬでせう。犂頭は、かくてその時第二の任務として、横軸卽ち上る楔として作用するでせう。而もその尖端は地面に水平に滑り返り、他の端は垂直になる迄上昇し續けるのです。換言すれば、地面に背後翼部から延び、廣く且つ斜に高く犂頭の幅の楔を置くことです。而してその表面に、尖端の左の角度から、後部の右上方角度へ對角線をひいて御覽なさい。對角線から地面に横はつてゐる右底端へ傾けて御覽なさい。その時の半分が、最小の勞力を以て土を徐々に盛り上げたり又ひつくり返したりするのに最も有効な形になつてゐるのです。更に貴方が對角線の左側を横切る同じ斜線卽ち少くともその長さが楔の幅に等しい眞直な線を、最初の斜線の表面に及ぼしそれ自身及び楔の端と平行に後ろへ動かして御覽になつて線の下端を右底端に沿つて動かせば、彎曲せる平面が生ずるでせう。それは楔の原理を交錯せる方向に結合した點にその特徴があり、それこそ私が探求してゐる最も抵抗力の少い犂頭なのです。それは實に偉大なる利益をもたらすも

ので而も構造が簡單ですから、素人でも充分作り得るでせう。（後略）

彼はその次に犂頭の詳細な設計圖を八枚も畫き微細な點迄說明してゐるが、それはあまりにも專門的になるから本稿では省略する。これについて Everett E. Edwards, Jefferson and Agriculture, (Washington. 1943) pp. 41—44 を參照。この書は、一九四三年ジェファスン生誕二〇〇年記念出版物としてアメリカ合衆國農務省から發行されたジェファスンに關する資料集である。）彼の案出した犂は實に傑出したものであつたが、未だに舊式な犂に對する迷信的な保守主義を捨てきれない農夫達には不幸にしてあまり受入れられなかつた樣である。然し乍ら之は注目すべき業績であつて、所謂試驗時代から科學的法則による發明への變遷を明示するものであつた。この新しい犂はヨォロッパ諸國の科學界から注目され、彼は歐洲の色々な學界から名譽會員の稱號を受くるに至つた。

扨て當時アメリカで麻を梳いて精製する工程は專ら人手で行はれてゐた。然しそれは多大の勞力を要し且つ非能率的なものであつた。ジェファスンは麻櫛を改良し、これを打穀機へ裝置して能率を上ることを案出した。その間の事情を、彼が一八一五年一二月二九日付でモンテイセロより、ヂョオヂ・フレミング George Fleming に宛てた手紙の一節にうかゞつてみよう。

（前略）過日落手した貴方の御書面によれば、貴方は平常機械力を應用することに多大の關心を抱いて居られる樣ですが、その方面のことについて一寸したことを（と云つても決して無價値なものではありませんが）お知らせ致しませう。貴方は我國の多くの人々同樣依然として家內工業を續けて居られるものと思はれます。然し貴方は他の人々と異り平和回復後は、舊敵國を富ませたり或は又外國の代理人を我國內で扶養する爲めに仕事を中止する樣なことはなさらないでせう。外國の代理人達は今迄私達に對し實に有害な影響を及し、更に多大の混亂と紛爭とを惹起したのです。

私達が使役してゐる勞働者達の仕事着は、今迄相當厄介な問題でした。つまり亞麻は我國の土壤には合はないし而も生產力が少いので、私は今迄その栽培を試みたことはありません。他方大麻は多量に生產されてゐるし又引續き同一の場所に成長する植物です。然し今迄人手で行はれて來たその精製過程は、實にスロォ・モォションで而も多くの勞力を必要としました。從つて我國の勞働者達から大いに不平不滿を云はれて來たものです。そこで私は大麻の製造をあきらめ、彼等の仕事着には既製品の木棉を輸入しました。然しその價格が騰貴したので、大きな支出項目の一つになつてしまひました。

た。尤も私は其後間もなく大麻の精製過程を簡易化する單純且つ廉價な方法を案出しましたので、現在では再び大麻の栽培加工を復活して居ります。打穀機の所有者なら、僅か一二弗から一五弗位の經費でそれに麻櫛を裝置出來るのです。

貴方も御承知の如く打穀機の最初の原動力は、上方に齒車のついてゐる水平の動輪です。而してそれにワロワァや軸がついてゐて、それが打穀裝置を動かしてゐるのです。私はこの輪の反對側にもう一つのワロワァやシャフトをとりつけます。而してそれを通し且つその外側の端近くに、一五吋程突出してゐる強力なクロス・アァムを通します。最後にクロス・アァムの下に、重く且つ強力な麻櫛を取付けるのです。その頭部の臺は特に重くどつしりしたものにして四フィト位の高さにし、正面の上端近くに強力な釘（私達はそれを horn と呼んでゐます。）を取付けるのです。それによつてクロス・アァムは上り、ワロワァの回轉する度毎に麻を二度梳きます。一人がこの麻櫛に大麻の莖を挿込み、一人の子供が頭部の臺の下で大麻の大きな撚りを支へ持ちます。煙草のそれに似てはゐますがそれすりも大きいこの撚りは、かくて梳かれるのです。而も人手でするよりもつと完全に梳かれます。若し動輪が一四四の齒車をもつて居れば、ワロワァは一一回轉し、馬は一分間に三度動いて八〇回梳きます。私はこの麻櫛を鋸機に裝置してみました。それは一回に二〇〇封度の割合で麻を梳きましたが、その作業を途中で中斷される不便があるので私は馬力を用ひ優秀な成果をあげました。原動力が小さければそれに比例して成果もあがらないものかどうかは、大麻の次の收穫期迄公正な實驗は出來ません。私は一頭の馬が一〇人分の仕事をなしとげるだらうと豫期して居ります。かくの如き發明は大麻の栽培者達から長年切望されて來たものですから、私はこの麻櫛の成果が確實に優秀なものであることが明かになつたら直ぐに、それが他人の權利を橫領する特許權所有者に惡用されるのを豫防する爲めに匿名で公表するつもりです。（後略）

三

ジェファスン時代の一般の農業經營法は、實に粗雜で非生產的なものであつた。從つて荒蕪地がいたるところに存在してゐた。ジェファスンはその長期にわたる公職在任期間中管理人が怠慢に放置してゐたモンティセロの農園の地味を回復しようとして、輪作を採用した。

一七九四年五月一四日附を以て彼がワシントン大統領に送つた手紙は、その間の消息を物語つてゐる。

（前略）私は私の農地の一部を調べてみましたが、私が一〇年間も不在で農地の管理を怠慢な管理人に一任してゐた爲めそれが豫期以上に荒廢してしまつてゐることを知りました。そこで私は何かもつと良い農業經營法（作付方法）を採用せざるを得なくなりました。私の不在中多くの土地を解放

したことによつて、私はそれが可能なことを知つたのです。私は私の農地を六つの畑に分割して、次の如く輪作する樣決めました。

第一年は小麥、二年目は雜穀芋類及び豌豆、三年目は狀況に應じてライ麥又は小麥、四年目と五年目も畑の狀況によりクロォヴァと蕎麥、六年目は羊を飼育したり蕎麥で仕立てる。

この計畫の遂行には、三年乃至六年かゝるでせう。然し私は（中略）今年こそ私の農園を荒廢から救う爲め多くのことをしようと云ふことだけで、滿足してゐるものではありません。時間、忍耐そして不撓不屈の精神こそ眞の救濟であるに相違ないでせう。貴方のお手紙中の箴言『ゆつくりそして確實に』は、政治上のみならず農業上にもあてはまると思ひます。（後略）」

輪作に關聯して、地味を回復させる樣な牧草の採用が必要であつた。ジェファスンはこの種の牧草として首宿（ムラサキ）キクヂサ及び各種のクロオヴァを用ひた。彼がこの種の牧草の紹介普及に如何に熱心だつたかを示すものとして、次の二つの手紙を掲げる。第一のものは一七九四年ジョン・テロイラァ John Taylor 宛の手紙の一節である。

「（前略）私の畑の樣に荒廢の度が激しくとてもクロォヴァが成長しない樣な畑には、イガ豆をおすゝめします。これはどんなひどい荒蕪地にも繁茂するし、實に偉大な地味回復草です。アァサァ・ヤング氏 Mr. Arthur Young のお世話により、私がフランスから輸入し大統領にもお送りしたキクヂサの種子を隣人に若干分與してあげたところ大喜びでした。私は今年このキクヂサを一つの畑に栽植してみようと思います。（後略）」

次は一七九五年四月二七日附でジェイムズ・マディスン James Madison 宛の手紙の一節である。

「（前略）私は私の作付計畫を、徐々にではあるが着實に實施しつゝあります。この計畫の遂行には四、五年かゝるでせう。尙昨年試みに一寸栽培してみた赤色クロォヴァは、大成功を收めました。それは約四〇エイカの畑に蒔いたのです。今年はそれを約一二〇エイカの畑に蒔くつもりです。（後略）」

四

外交官として多忙な生活を送つてゐた滯歐中も、ジェファスンは自國アメリカの農業に有利な情報を友人に通信することを忘れなかつた。更に彼はヨォロッパ產の穀物、栽培植物、果樹等を實際にアメリカへ移植した先驅者でもあつた。それらのうち殊に注目すべき一つは、陸稻をサウス・キャロライナ及びヂョオヂアへ初めて移植

したことである。

イタリイのピエモン地方產の米が品質優秀であり、且つその販路が廣いことが、パリ滯在中のジェファスンの注意を惹いた。彼はその米とキャロライナ產の米との差異が、穀物そのものの差異によるのか或は又その精米方法によるのか、疑問を抱いた。そこで自ら親しくイタリイのピエモン地方を訪れ、そこではサウス・キャロライナと殆んど同一の方法で精米が行はれてゐるのを目擊し、ピエモン地方產米は穀物そのものの品質が卓越してゐるものと結論した。彼は早速その種籾を故國の友人に送りたいと思つた。然し當時ツーリンの政廳は、籾の國外輸出を死刑を以て嚴禁してゐた。そこでジェファスンは駅者を買收し、數袋の籾をアペニン山脈を越えて密輸出する樣そゝのかした。愼重な彼は、それが成功しない場合をも考慮して、自分のポケットの中にもイタリイ產の優秀な籾を詰め込んだのである。然し幸ひにもこの密輸出は成功した。かゝる經路を以て、この禁斷の實はサウス・キャロライナ及びヂョオヂアへ送られた。その結果これ等の地方は、その後間もなく世界的に品質優秀な米を產出する樣になつたのである。ジェファスンの樣な紳士が、何故密輸と云ふ如き不法な非常手段に訴へて迄もイタリイ產の優秀な米をアメリカ南部地方へ移入せんと努めたか？　それは當時マラリヤの爲めキャロライナの水田が壞滅に瀕してゐたからであつたと云はれてゐる（Nock, Jefferson. p. 169.）その間の詳しい事情について、一七八七年七月三〇日附でパリからウィリアム・ドレィトン William Drayton に宛てた彼の手紙の一節を引用しよう。

「私はこの國（フランス）殊にその首都（パリ）に於ける米の消費量が莫大であるのを觀察し、それらの米は如何なる市場から來るものか、又我國（アメリカ）から來る割合はどの位であるか、更にその割合を增加させることは可能か否かの諸問題を調査してみようと思いました。パリは外國との貿易には殆んど直接に關係してゐないので、以上の諸問題についての情報を入手するのは困難なことです。私は先づ米の小賣商人に照會してみました。そして彼等から眞實と誤謬の混合した情報を得ました。尤も最初のうちはどれが眞實でどれが誤りなのか、仲々識別出來ませんでした。然し私は引續き照會調査を行ひ、遂に次の樣な結論を得たのです。

こゝの米商人は二種類の米を購買してゐる樣です。卽ちキャロライナ產米（彼等は之を英國を通して輸入してゐます）及びピエモン產米です。

キャロライナ米は形が細長く白色透明でミルクや砂糖で料

理するには適してゐます。然し脂肪性調味料での料理には不適です。之に反してピエモン米は粒が短く色もあまり純白ではありませんが、脂肪性調味料での料理には適し、美味なので、食通の人々からは愛好されてゐます。然しキャロライナ米は外見が美しいので、外見にひかれ易い消費者の眼を誘惑し、結局ピエモン米と同じ位の需要がある樣です。米商達は、この二種の米の相違はその精製法に基因してゐると考へてゐるらしいです。つまりキャロライナ米の精製法は粗雜で粒が揃つてゐないとのことです。從つてそれはピエモン米より價格低廉です。米商人達は觀客の嗜好に迎合しようとしてキャロライナ米を選り分けます。そして優秀なのはピエモンと同じ位多く仕入れ、殘りの屑米は二等品及び三等米としてより廉價に販賣してゐます。キャロライナ米の不評の原因は、それがある種の料理に用ひるとボロ〳〵に崩れてしまふ點にある樣です。そしてこれは精製の際の不手際によるものと考へられて居ります。私はフランスの港町を視察する旅の途中マルセイユに立寄つた時、ピエモン地方に於ける精米法をこゝの米商人に聞いてみようと思ひました。然しマルセイユの米商人達はそれについて色々異つた說を述べました。磨臼の石で精製すると云ふ者や磨臼の形をした木製の摩擦機で精製すると說く者もあり更にコルクですると云ふ者さへありました。尤も彼等は、私がアルプスを越えてイタリイのピエモン地方へ赴いて親しく視察すべきだと云ふ點では一致した意見をもつてゐました。それは約三週間の旅程です。私はアルプスを越えてイタリイへ入り、ヴェルケリイからパヴィア迄の米產地を約六〇哩にわたつて視察しました。そしてそこでの精米方法が、キャロライナに於けると全く同一なのに氣がつきました。それはE・ルートリッヂ氏 E. Rutledge が營て私に書き送つて下さつた。精米機についと說明を想起させました。即ちそれは搗器の原理に基いたものです。それらの中には、各杵に鐵製の齒を附け互に鉤着した九つの大釘から成つてゐるものもあります。これはルートリッヂ氏の說明にはなかつたものです。私はさういふものを作らせました。私はこの手紙でそれを貴方にお知らせする光榮を有します。私はこゝで使用されてゐる精米機の大部分は右の鐵の齒がついてないものでそれ程效果的でないことを知りました。從つてこのロムバルヂイ地方產米は（ピエモン米と一般に稱呼されてゐるものは實はこのロムバルヂイ地方の米なのですが）、品質はキャロライナ米と全然別種のものであることを知りました。アジアでは數種類の米が栽植されてゐる樣です。

アイル・オブ・フランスの前總督ポワヴル氏 Poiure はアジア諸國を巡遊し、該地の農業を特に注意して視察した結果、次の樣なことを私達に示してくれました。

『交趾支那の農民は六種程の米を栽植して居り、そのう

ち三種類が水稻で他の三種類が陸稻である。』

キャロライナ米はマダガスカルから移植したものだと云はれて居ります。ポワヴル氏の言によれば、マダガスカルの米は白色との由です。このことはキャロライナ米が本來ピエモンのそれとは品種を異にして居り、更に兩者の栽植方法及び氣候はもつとそれ以上異つてゐることを立證する有力な資料です。

私はこのやうに考へた結果、貴方に精製されてゐないピエモン米を若干差上げようと思ひました。然しこの國では、籾を國外へ搬出することは法律で嚴禁されて居りますので、私は止むを得ずある人を誘つて秘かに搬出させようと、更に萬一失敗した場合をも顧慮して私自身もポケットの中にそれを三封度入れて持ち出さうと企てました。私はさうして苦心して搬出した籾の一部分を、ロンドン經由で貴方にお送りしました。然し若しそれが途中何か事故があつて屆かないと困りますから、他の方法でもう一包お送りするつもりです。それは無事に屆けば、種籾にするのに役立ち更に良き研究資料となるでせう。尙レヴァント地方も米を產出してゐます。而もそれはピエモン米より品質優秀であると考へてゐる人もある位です。尤も最近數年間レヴァント地方に勤亂が起つたので、レヴァント產米はこゝ暫くヨオロッパ市場から遮斷されてゐます。然し私はとにかくマルセイユでレヴァント產米一袋を入手しました。それとマルセイニへ行く途中入手したロムバルヂイ產の最良の米を、貴方が料理して兩者の優劣を識別し得る位の分量だけお送りしませう。それらをキャロライナ及びヂョオヂアへ移植すれば、確かに有利なものとなるだらうと私は確信します。それらの栽植が擴大されゝば、それに對する需要は現在のもの以上となるでせう。

扨て交趾支那產の陸稻は、最も純白で風味があり、生產力も一番あると云うので有名です。つまりそれは、私達の知つてゐる他の二種類の米の長所を合せた樣なものです。若しその移植に成功すれば、我々は人間の健康と生活に致命的に有害は水田の沈滯せる水を除去し得ることとなり非常に仕合せなことと思ひます。（後略）」

ジェファスンは亦オリイヴを南部諸州に栽培せんと試みた。彼はその栽培に多大の期待をよせ、五〇〇本以上のオリィヴ樹をサウス・キャロライナへ送つた。前掲の籾移入について引用したと同じ手紙の一節に、次の如く述べてゐる。

「（前略）オリィヴは、アメリカでは殆んど知られてゐない果樹です。然し十分認識する價値のあるものです。それは人類への神のあらゆる賜物の中で最も貴重のものではないけれど、非常に貴重なものです。（中略）僅か三、四ペンスで買へる一封度のオリィヴ油は、それで調理する野菜と共にその

榮養價に於いて優に數封度の肉に匹敵するものですし。味も美味です。南部諸州をこの果樹で蔽ひませう。さうすれば、誰でもこのオリィヴ油の消費者になれるでせう。（後略）」

かくてオリィヴ樹の栽培が熱狂的に開始された。然し不幸にもその土壤や氣候が栽培に適しなかつたので、彼の努力は報いられなかつた。彼は一八一三年ジェイムズ・ドナルドスン James Donaldson 宛の手紙の中で、その失敗を次の如く述べてゐる。

「（前略）私が世界中で一番優秀なオリィヴ樹と云はれてゐるエイ産のオリィヴ樹五〇〇本を二船でサウス・キャロライナへ送つてから、既に二五年の年月が經過しました。然し現在それは物好きが果樹園の一部に一寸栽植してゐるのみであつて、オリィヴ樹だけの果樹園は一つもありません。（後略）」

五

ジェファスン時代のアメリカ農民は、家畜の飼育に關してヨォロッパ農民より遙かに遲れてゐた。かくてジェファスンはヨォロッパから優秀な家畜を輸入して、その品種を改良しようとした。彼は、スペインからメリノ種羊をアメリカに初めて輸入した人々の中の一人であつた。次に掲げる彼の一八一〇年五月一三日附、ジェイムズ・マディスン大統領宛の手紙は、メリノ種羊の輸入に關し興味深い提案を述べてゐる。

「（前略）さうすることが可能なごく少數の人々が危險やあらゆる新しい改良についての經費を負擔し、改良による利益を色々制約された環境にある多くの農民に自由に分與することは、極めて重大なことゝ思ひます。（中略）我々の州の各郡へ出來る丈早く一頭づつの純種の種羊を與へて下さい。そして下さるならば、各郡でその一匹の種羊を最も有効に利用する爲め私は各郡の有志連中に、この種羊の世話をしたり又その交配に關する規則を規定すべき小さな團體を形成する樣に依頼しませう。（後略）」

この手紙に示されてゐるヴァヂニア各地にメリノ種羊を分配する計畫は、近年に於ける協同交配巡回班又は協同交配クラブの先驅をなすものと看做される。

彼は更にその他、象鼻虫や蠅等の害虫驅除に關して科學的且つ有效な方法を研究したり、能率的な播種機を工夫したりして、農業のあらゆる方面にわたる改良に努めたのであつた。

六

次に彼の農業に關する著述やメモについて一言しよう。

彼の唯一の著書たる「ヴァヂニア覺え書」（"Notes on

Virginia" (Paris, 1785) は、彼がフランス大使として多忙な外交官生活の餘暇に執筆したものである。彼はこの書を通じて、アメリカ文明は本質的に農業文明であり且つ將來も亦農業文明でなければならないことを力説してゐる。スミソニアン・インスティチューションのG・ブラウン・グッド氏 G. Brown Goode によればこの書は合衆國の地誌、自然史及び天然資源に關する最初の包括的論稿であり、其後各州や聯邦政府から發行される樣になつた科學的報告書の先驅をなすものである。（"Notes on Virginia" の詳細については、次の二論文を參照。R. H. Brown, Jefferson's Notes on Virginia, in "Geographical Review" 33: 467—473, July 1943, P. L. Ford, Jefferson's Notes on Virginia in "Nation" 58: 80—81, 98—99, Feb. 1. 8. 1894）

彼は更に備忘錄として「農場メモ」(Farm Book) 及び「菜園メモ」(Garden Book) を書き殘してゐる。これら兩メモの原本は、ボストンにあるマサチュセッツ史學協會のクウリッヂ・コレクションに藏せられてゐる。

「農場メモ」は、一七七四年から一八二二年迄に、彼が農業に關して書き留めたいと思つたことを書いたものである。斷片的なものであるが彼の農業活動の興味深い半面を示してゐる。

次に「菜園メモ」は「農場メモ」と同樣に一七六六年から一八二六年の間の記錄であつて、之は主に果樹園や蔬菜園に關する彼の關心を示す興味深い記事を含んでゐる。（「菜園メモ」については、次の如き論文がある R. H. Trne, Thomas Jefferson's Gardcn Book, in "American Philosophical Society Proceedings 76: 939—945, 1936

彼は又農業協同組合にも多大の關心を有し、各郡毎に農業協同組合を作り、更にそれを一つの國家的農業協同組合に統合し以て廣く農民の啓蒙に資する樣提案した。彼自身もアルブマァル農業協同組合の中心人物となつて大いに活躍した。而も彼の活動範圍は決して合衆國内に限定されず、遠くヨォロッパの農業會等にもアメリカ種の植物や種子を試驗用に送付し廣く人類の農業發展に貢献した。

尙彼のモンティセロのライブラリィは、廣く各國の權威ある農業書を多く蒐集し所藏してゐた。その一部の文献目錄が、一八一七年三月三日附ヂョオヂ・W・ジェフリイ George W. Jeffrey 宛の手紙の一節に紹介されてゐる。（この手紙全文は "American Farmer" 誌 2: 93—94 (1820) に引用されてゐるが、文献目錄の部分は前掲の E. E.

Edwards, Jefferson and Agriculture, 1948, pp. 79—81 にも出てゐる。)

外國大使や大統領等と多忙な公職生活を送つた彼が以上の如く農業の殆んど全分野に亙つて顯著な活躍をしたことは、正に驚嘆に値する。然し彼も決して時代の風潮と遊離した存在ではなかつた。ここに彼の時代のアメリカ及び密接な關係にあつた當時の英國の社會的風潮について言及しよう。

當時の英國では、農藝趣味が一種の流行となつてゐた。卽ち貴顯紳士や富裕な階級の人々が、色々新しい農業上園藝上の試驗を行つたりして大いに農業に關心を示してゐた。かくの如き、指導者階級の農藝趣味に刺戟され、たとへ狹小なものでも菜園をもつてゐる一般庶民階級の間に農藝趣味が普及してゐた。他方アメリカに於いても、獨立戰爭終了後一般の人々の關心は「劍から犂」へと轉じ、富裕階級も英國の影響で等しく農業に關心を抱いてゐた。當時アメリカ人殊に識者や富裕階級は未だ英國に對する植民地的劣等感(コンプレックス)から脫却し得ず、英國のものは何でも優れたものとして模倣する傾向が强かつた。これはフランスの社會心理學者ガブリエル・タルドの所謂「優勝模倣」である。ジェファスンも英國に於ける農業改良奬勵會のアメリカに於ける名譽會員の一人として、この會を主宰してゐたアァサァ・ヤング等の優れた英國農業家と屢〻文通し、英國の優れた技術等の紹介に務めたジェファスン以外の英國農業奬勵會のアメリカに於ける他の六名の名譽會員 honorary members の氏名は、次の如くであつた。曰く George Washington, Jhon Adams, John Jay, Rufus King, Dr. Enoch Edwards, William West. 卽ちこれから推しても、ワシントンを始め他の諸大統領や學者等當時のアメリカ指導者階級が如何に農業に關心を抱いてゐたかが明かであらう。(これは英國王立農業協會圖書館發行小册子一六四號中の農業改良奬勵會々員名簿による。尙本稿はそれを R. C. Loehr, The Influence of English Agriculture on American Agriculture, 1775—1825, in "Agricultural History," 11: 3—15 (January. 1937) より引用した。)

ジェファスンが農業に對し如何に深い愛着を有してゐたかは、彼が大統領就任後も常に自己の職業を「農夫」farmer と書いてゐたことからも明かである(詳細は D Malone, "Thomas Jefferson," in Dictionary of American Biography, 10: 17—9 を參照)彼は正にアメリカ建國期に於ける典型的な紳農であり「アメリカ農業の父」と稱さるべきであらう。

アメリカ產業資本の形成

——鐵工業の性格と系譜——

中村勝巳

「かかる製造業は農業の末裔である。」
——アダム・スミス　國富論
キャナン版三八三頁——

一

我々が資本主義發達史を研究する場合、先づ問題となるのは、資本主義とは何であるかといふ事である。この點について、學者の見解は二つに大別出來ると思はれる(1)。その一は之を近代に特有な現象と考へ、從つて資本主義發達史の研究とは、特殊近代的な社會經濟構造の成立過程を探る事であるとする(2)に對し、他は資本主義を「營利」乃至「利潤追求」一般と考へ、從つて古代資本主義とか中世資本主義と呼ばれるものを考へるのである(3)。確かに、かゝる意味のいはゞ類型的現象としての「資本主義」＝「營利」＝「利潤追求」は歷史の何れの時代にも存在した。「『資本主義』は支那、インド、バビロンにも、古代にも中世にも存在してゐた(4)。」「其は實際、歷史的に最も古くから存在してゐるところの、資本の自由な存在樣式なのである(5)。」併し、かゝる「營利」も歷史的にはその性格を異にしてゐた(6)。それ故に、我我は近代以前の資本の存在形態を「前期的資本」と呼び、近代の其を「產業資本」と呼びたい。而して後者が前者と異る所以は、其が流通行程に活動の主なる場面を見出すに非ずして、特に生產力の基盤の上に立つ營利、換言すれば、自らの中に生產行程を含む營利である點である。